



地域のいのちを守るために

～君津中央病院企業団「経営強化プロジェクト」経過報告①～

いま、病院経営は大きな苦境に立たされています

医療の現場では、物価高や人手不足など、日々たくさんの課題に直面しています。もはや、救急やがんなどの専門医療を提供する病院では、国に定められた診療報酬だけでは、病院経営を黒字化することが極めて難しい状況となっています。私たちも残念ながら令和6年度は赤字経営となってしまいました。

でも、私たちはあきらめません。「必要なときに、必要な医療を受けられる」地域医療の最後の砦としての使命を果たすためには、経営の安定が不可欠です。私たちは、企業長直轄の「経営強化プロジェクト」を発足し、職員一丸となって経営強化に取り組んでいます。

「経営強化プロジェクト」の主な取り組みの例

- ✓ 入院・救急：病床の使い方を見直し、救急患者の受け入れを強化します。
- ✓ 地域連携：地域の医療機関と連携し、それぞれの役割を担い、紹介・逆紹介の流れをスムーズにします。
- ✓ 収益分析：部門ごとの収入・費用の採算性を分析し、経営判断に活用します。
- ✓ 自費料金：物価高と利用者負担のバランスを考慮した適正な料金設定に見直します。
- ✓ 診療報酬：診療報酬のタスクフォースチーム（短期集中型対策チーム）を結成し、算定を強化します。
- ✓ 費用削減：価格交渉やICT導入による人件費抑制、節電、ペーパーレスの推進など費用削減を徹底します。

病院はチームで動いています

- ✓ 診療科や職種を超えたチームが活動中です。
- ✓ 日々の気づきや工夫が、プロジェクトを前に進めています。
- ✓ 電子カルテやデータを活かした分析も進行中です。

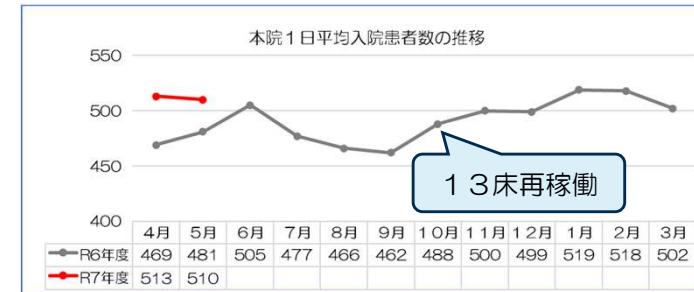
経営改善の成果の例

DPC医療機関別係数

DPCとは、診療報酬について1日あたりの包括支払を行う度で、1日当たりの診療報酬点数に係数をかけて算定します。この係数*には、「病院の機能や実績」が反映されますが、君津中央病院本院は、千葉県内で2番目に高く評価されています。（*医療機関別係数Iを除く。大佐和分院はDPC対象外病院。）

入院患者数の増

働き方改革による医師不足の影響、また、慢性的な看護師不足の中においても、病床運用の最適化・効率化を進めることで、令和6年10月にコロナ禍で閉鎖していた13床の再稼働を果たし、冬の救急患者の増加に対応することができました。令和7年度も引き続き多くの入院患者さんを受け入れています。



地域のみなさまへ

医療は病院だけでは成り立ちません。患者さん、家族、地域の医療機関、そして地域のみなさまとの「つながり」が、これらの医療をつくりていきます。これからも地域とともに歩む病院を目指して、取り組みを継続してまいります。ご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

日本病院会 相澤孝夫会長のメッセージ

「日本の病院の約7割が赤字という衝撃の事実をご存じですか」
こちらのQRコードからご視聴いただけます。



この記載に関するお問い合わせ先：君津中央病院 経営企画課